

井戸端 通信

Vol.36 発行
平成21年9月10日

〒930-0096
富山市舟橋北町7-1
富山県民生涯学習カレッジ内
自遊塾広報部

徒然草から



県民カレッジ学長
結城正斉

徒然草の中のよく知られている話である。

仁和寺の一人の法師が、男山にある名高い石清水八幡に参詣することを思い立ち、一人で向かった。はじめて訪れた山麓の

社や寺は荘厳で尊く、祈りを捧げると満ち足りた気分になった。出会った人に、その参拝の感激とともに参詣した人たちはなぜ山に上っていくのだろうと疑問を語った。実は、法師が参拝したのは八幡宮に付属した寺社であり、八幡宮の本体は山の上にあるのである。著者の吉田兼好はこれについて「すこしのことに、先達はあらまほしき事なり」と言っている。

広辞苑では、「先達」を①その道の先輩②修験者の峰入りなどの先導者③案内者などとしている。富士登山や立山登山のことを思うと、先達に導かれて参詣すれば、安全で道に迷うこともなく、時間の無駄も少ない。しかし、先達への依頼心は大きくなり、参拝者たちは、ものを考えなくなりがちである。寺社に参り、祈りを捧げるのは自発的で主体的な行為である。当時の霊地霊山参詣の先達は、参拝者の依頼心が大きくなりすぎぬようにする手だてや、自ら進んで参拝しようとする意欲を高める手だてを様々な工夫したのではないだろうか。当時は、もっぱら歩くことが主であったから、参拝者が自力で進む意欲を持つことは、絶対に必要なことであつたろう。

また、険しい山道を先達だけを頼りに這い上がるのより、同行の仲間たちと助け合い励ましあつたり、さらには出会った人とも声を掛けあつた方が元気に登れるように思う。優れた先達は、参拝者の集団作りを心がけ、集団としての一体感や意欲の醸成に配慮したのではないだろうか。ところで、学ぶことは未知の山に登ることに似ているし、

教えることは先達の仕事に似ている。学びを続けるためには、山に登るのと同様に、気力や意欲が必要である。その意欲は、学ぶ目的や目標が定まると高くなる。また、学習の進み具合を自分で感じることや、仲間同士の協力や学びあうことなどにより意欲をさらに向上させることができる。その際、教える者・先達は、少しでも早く知識や技能を的確に身につけさせようと張り切りすぎるあまりに、一方的な教え込みになってしまうように注意しなければならない。教え込みは、学習者を自分で考えることを放棄した指示待ち状態にしてしまうおそれがある。何よりも、学習者が意欲を持つていることが大切なことであるから、教える者は学習者の意欲を喚起し、それを持続させる技を磨く必要があるのではなからうか。

富山県の自遊塾の活動は全国的にもユニークで先進的である。学んだ喜びを伝える集団の中では、県民教授の熱心な指導があり、さらに師弟の垣根を越えた相互の高めあいと、学びあいや教えあいがなされている。今後は、その学習集団の中の活動がさらに充実することだけにとどまらず、学習者自身が、さらに新たな学びの集団を作ったり、学習成果を地域活動として学習成果を発揮する活動が拡大することなどが期待できるのである。まさに、自遊塾の活動は、一人一人が生き生きと活躍する、知の循環型社会の先鞭をつけるものといえる。

この優れた自遊塾の活動をさらに充実発展させるため、県民教授の皆様方に、よき先達としての力をいっそう発揮していただくことを期待している。

平成21年度
自遊塾
県民教授会
役員紹介

- 塾長 加藤 利雄
- 副塾長 岩田 元一
- 熊木 保子
- 幹事 齊藤 允
- (広報担当) 平田 清志
- (交流・研修担当) 辻 美喜子
- (出前・庶務担当) 水須 忠

自遊塾15周年 歴代塾長の言葉

心の玉手箱

初代塾長

永田 円了



私にとって自遊塾は、心の玉手箱をあける鍵である。幾多の可能性（宝物）を開きかけを与えてくれたもの。当時大学で教鞭をとって15年が経ち、自分自身の中にマンネリ化の波が漂っていた時、私はこの企画に飛びついた。何とも斬新で、大胆なプロジェクトだった。出る杭は伸ばせ、出ない杭は腐る。”というスローガンのもと、講師を一般から公募、対象は、60歳未満の現役社会人、講座は平日の夜又は週末に開講、というそれまでの生涯学習の概念を覆すものであった。人はそれぞれに生きていくための職業を持ちながらも、心の片隅で何か光るものをもっている。この宝物は、多くの場合、哀しげな楽屋裏で出番を待ち続けて生涯を終える。でもこの自遊塾は、人の表の顔には興味がなかった。むしろ社会に向けた仮面の裏側で、この娑婆世界をおもいつきり楽しみたいと願う内なるエネルギーに、その舞台を提供してくれた。そしてこれから、その使命を果たし続けることを祈る。

15周年によせて

第二代塾長

松原 和仁



1995年、生涯学習として自遊塾が開講され、今年で15周年をむかえました。私も初年度から「海抜0m・3003m、ウォーキング冒険塾」をはじめさせていただいて、15歳も年を重ねました。塾生と共に学び、楽しみ、交流するといふ姿勢は今も流れ続いていきます。15年の間に、500名以上の方々と出会い、OB会である「ウォーキング冒険塾」の

名簿には、今年も200余名の方が登録されました。当初は思いもよらなかった形に展開してきました。自遊塾の「生涯学習」というフレーズをしみじみと味わっています。人々が働きつつ、また、退職後もみずから豊かな意義ある生活を求めて、自遊塾で学ぶことは、新しい人生の発見の場でもあります。なお、自遊塾の魅力と持続は、民間主導ではなく、県の生涯学習カレッジの講座であるからでしょう。15年の蓄積は宝となりました。これからも、県民の新しい学びと創造の場としての自遊塾を目指していきます。

自遊塾塾長を 経験してみて

第三代塾長

泉 貞夫



全国的にも教育県といわれている富山県は、生涯学習も盛んで民間でも数々の講座や教室が有り、多くの人が老いも若きも何がしかの知識や技術を身に付けようとする進取な県民性を持っています。どの町や村にも、書道教室・ピアノ教室・茶道華道・そろばん塾、最近ではフラダンス教室やヨガの教室、まだまだ書ききれませんが、これらの看板を目にしない地域はないといっても過言ではないでしょう。

ただ、教育と文化・芸術を一色帯に考える傾向も強いと思います。学習したいのか文化・芸術に触れ親しみたいのか、という区分けを主催側と受講側が同じコンセプトを持っていないとちくはくしてしまおうと思えます。技術や知識や資格を持っているから、教えたから、教授に応募する・・・、それはそれで高邁な次元のことなのかも知れませんが、通常の技術・知識に留まらず文化・芸術分野の講義までも、県がやっているから、授業料が安いから、教えたい人が教えられるのは如何なるものかと思えます。日本は今こそ真にグローバルな視野で進んでいかねばならない時代です。だからこそ日本の文化とか芸術を軽んじてはいけないと思います。

想いが繋がって15年

第四代塾長

経田 博子



私が塾長をさせていただいた平成13・14年度は、自遊塾が少しずつ県民に認知されてきた頃でした。県民教授・塾生の応募者も増え、講座数の増加を望む声も上がっていました。が、予算の制限など、現実には難しい面もありました。そこで、カレッジでお考えになったのが、これまでの方法を進めるAタイプと、自主運営を強く意識したBタイプという講座運営でした。この方法は、

続けるために「今何ができるのか」知識を出し合って、工夫することを自遊塾は行ってきました。講座開設時から15年、試行錯誤を繰り返しながら、その時代にふさわしい自遊塾の在り方が工夫されてきています。自遊塾の素晴らしさは、それぞれの時代を受け入れながら、変化する柔軟性を持ち合わせていることだと思っています。学ば心にも遊びを取り入れて、塾生も県民教授も変容していく自遊塾。こんな自遊塾に関わることができ嬉しく思っております。出会う喜び・変化する楽しみを大切にして、開塾時からの想いを繋いでいきたいと思っております。

塾長時代の思い出

第五代塾長

岡岸 喜義



自遊塾に関わってもう12年が経ちつつくつく時間の経過に驚いています。その間四々しく3年間に塾長をさせて頂きました。塾長時代の大きな思い出は、3つあります。

- ① 自遊塾を広報するために学遊祭のほか、自遊塾祭りを計画したが、会場の都合で頓挫したこと
- ② 林慶子県民教授・河原達郎学習専門員・

「自遊塾」の命を 守り抜いた激動の2年間

第六代塾長

松本 慎一



平成18年、自遊塾12年間最大の危機と激震が走った年であった。先人たちが長きに亘って築きあげてきたシステムやノウハウ、そして県民に広く親しまれてきた積み重ねの歴史、これが一瞬にして消されてしまうのではと役員や県民教授に危機感と緊張感が走った。検討会の成り行き待ちだけの対応でいいのかと役員や各県民教授が結束して立ち上がるなど、長い自遊塾の歴史の中で特記に値する初めての「事件」であった。

役員会を毎月2回以上、臨時県民教授会までも開きまとめたのが県への要望書。自遊塾のあゆみと成果のまとめ、県民教授・塾生へのアンケートのまとめ、自遊塾の魅力と可能性、自遊塾の今後の活動指針、自遊塾の運営についてなどをまとめあげた切実な要望書を富山県あてに提出。これも始めてのこと。

いままでも県民教授個人中心の活動から、各県民教授が連帯して結束を固めた県民教授会の組織力と諸活動こそが、激動の「自遊塾」の命を守り抜いたものと思っている。自遊塾の大きな成果だったと確信している。

木下晶副学長の父上と3人の死去に遭遇し塾長として葬儀に関わったこと
③ 社会のニーズにこたえて、講座が右肩あがりになり自遊塾のあり方について新聞報道で問題になり、自遊塾の存続を考えるためにFV（フューチャービジョン）委員会を立ち上げて自遊塾の存続の要望書を提出したこと（松本塾長に引き継ぎ）
などがありますが、今思えば皆さんに迷惑をかけただけと反省しきりです。

新規講座 実況中継

『健康体力づくり』ウォーキング中

檜谷 靖城

塾生・助手等とラグビーでいう処のフットボールが、ヨチヨチウォーキング中です。

何をやるにもアブローチが下手で実践に入りたがる日本人に対し、欧米人はアブローチを大事にする聞いています。

脳に気づきと妥当性をしっかり根付けさせるため、現役の百寿者殿からそのコツを学び塾生自身が能動的に学習することが、イキイキ元氣へのパスポートと思います。

わかりやすく、楽しく、バラエティに富んだ講座運営を心掛け、口ペタは、ビデオテキストの多用によりカバール、塾生満足度を得るように工夫しています。又ミニ講座、特別講座、番外講座も企画しています。

講座の内容としては、健康・体力について、現役百寿者十名の健康の秘訣、関連ビデオの視聴、ストレッチ、ウォーキングの基礎、ライフスタイルと運動習慣、体質改善例、夏バテ対策と自然療法、ダイエットするとお得ですよ、体力測定、海外における体力づくりとメニューが沢山の用意されています。

講座ののぞき見歓迎、お茶も用意していますので、是非お寄り下さい。



新米講師苦戦中

「熟年バックパッカー海外の旅」

田村 時子

珍しいタイトルで15名もの応募があった。新米講師としては怖くて、嬉しい悲鳴を上げています。動機は人さまざま。いくつか行く旅のために受講した人。あるいはもういつでも旅に出掛ける用意ができていて、スタンバイしている人など、多少、温度差がある。でも、海外に目が向く人は、体力、氣力に自信がある証拠だ。すごい熱意を感じる。

これに、パソコン力が加われば、鬼に金棒と言え。インターネットはまさに情報の宝の山。自分手作りの旅を作って、その醍醐味を味わってほしい。講師としては、まだまだ未熟で、苦戦中の私。でも、新しい人達との出会いに満足している。今年はきっと何かが変わる筈。これからの展開が楽しみです。



童謡・唱歌との再会

小野田澄子

「一ヶ月のご無沙汰でした。みなさん、いかがお過ごしでしたか。」

かつての名司会者、玉置宏が歌謡番組の幕開けで言っていたような挨拶で講座が始まります。これまでに童謡や唱歌、愛唱歌そして日本歌曲など、歌った曲は約三十曲になりました。受講生の方々はとも真面目で意欲的なので、ついつい欲張った内容になります。休憩時には近況を聞いたり、世間話をしたりと、いつもあつという間の二時間です。



今まで歌った曲を少し紹介します。

めだかの学校／七つの子／とんぼのかごね／ゆりかごの歌／若葉／茶摘／この道／夏の思い出／峠のわが家／椰子の実／螢／星の界／浜辺の歌／月の沙漠／追憶／浜千鳥／見上げてこらんな夜の星を／大きな古時計など。

歌詩の意味を味わいながら、なつかしい歌の数々をみんなで楽しんで歌っています。

「元氣の出るキラキラ談話室」を開催して

谷川 恵美子

今年度初めて「元氣の出るキラキラ談話」の講座を開催致しました。どれだけの人が応募していたのかわかりませんが、果たして「教授からの一言」に記載したコメントでどれだけ思いが伝わるものなのか、すべてが手探りのままのスタートでした。私の心配をよそに応募していたいた受講生の皆さんの住所は、入善町、高岡市、小矢部市、富山市と県内の東西全域に渡つての応募者が有り、人数は多くは有りませんが、その情熱にはただただ感服いたしました。今日までに4回の講座が終了し前回は移動「談話室」を我が家で開催致しました。「移動談話室」とあって、お友達参加もあり、文字どおり素敵な出会いのキラキラ談話室と成りました。毎回受講生の方々に各自のテーマで自身の体験を発表して頂き、発表に対して聴いている人の感想もフィードバックするスタイルを継続しております。回を重ねるごとにお互いに緊張感もほぐれて、講



座ではお互い愛称で呼び合う等和やかな雰囲気で行っております。前回受講生の方々に本講座の感想を記載して頂きましたので以下紹介いたします。Uちゃん「一人の話をいろいろ聞き自分の思いと比べると自分の生き方の方向が出てくる。自己と他とのあり方が考えられる。自分向上の場となる。」M美ちゃん「初めての参加でしたが気さくな方達がそれぞれに興味深いお話をされてとても楽しい時間を過ごす事が出来ました。こういう場に参加して心を開いて話す事で、自分だけの範囲では考えられない位、沢山の人生経験が出来るということ、とてもツイテル?と思います。今日この場に出来る事が出来て感謝、来てくださった方に感謝。有り難うございました。」H子ちゃん「講座受講生の方々一人ひとり個性的で前向きな生き方をしておいでになることがあふれ出て、その中に加わる事が出来、嬉しく思います。先生有り難うございます。後期も宜しく願います。」Nちゃん「キラキラにはれて教室に入りました。人数が多くなれば良いです。素直さが生きますように?。」Kちゃん「今日は飛び入り参加させて頂きましたが、とても楽しい教室で参加出来て本当に良かったです。今日は本当に有り難うございました。」Iちゃん「今日はとても楽しく過ごさせて頂きました。有り難うございました。」Yちゃん「普段交流のない人々の話を聞くことが出来、貴重な時間を過ごす事が出来ました。」等々の感想を受講生の方々から寄せられました。講座の後半は9月から10月まで残すところあと3回となりましたが、私自身、この出会いに感謝し、より友好の絆が深まるように、笑顔の触れ合いを大切に、感動を共有して行きたいと思っております。

第21回学遊祭のご案内

日時／10月3日(土) 10:00～16:30
 場所／教育文化会館・知事公館
 内容／・式典・上映会・ステージ発表・講演会（トークショー）
 ・展示・ミニ講座・お茶席

2 F ホール
 【式典】10:00～10:50
 ・高単位認定者認定証授与・生涯学習団体表彰・はつらつ学びのリーダー認定式
 【上映会】10:50～11:20
 ・天涯を護る一立山カルデラの砂防一
 【ステージ発表】12:00～14:30
 ・生涯学習団体・自遊塾講座
 【講演会(トークショー)】14:45～16:15
 ・講師 剣 幸 氏・演題～自然体で生きる～

1 F 集会室付近
 ・自遊塾講座実演・体験

1 F 集会室
 【展示】
 ・生涯学習団体・県民カレッジ友の会「雷鳥会」・自遊塾倶楽部、自遊塾
 ・その他

203号・304号・401号
 【ミニ講座実演・体験】
 ・自遊塾・富山インターネット市民塾クラブ

ハイビジョン学習室
 ・映像フェスティバル

知事公館
 【お茶席】(別途お茶券が必要です)

「越中の山野草と温泉を楽しもう」 ブログ発信

笹伊 昭雄

1年半に及び「はつらつ学びのリーダー」(講座開設コース)を受講してきましたが、その講座の中で実地研修があり、「越中の山野草と温泉を楽しもう」を学んできました。講座開設にあたり、加藤塾長のご指導のもと「越中の山野草と温泉を楽しもう」に「ブログ作成コース」も取り入れて頂き、新講座を開かさせて頂きました。



この講座の趣旨は、山野草や自然に親しみながらブログ作り、コミュニケーションの幅を深めようという目的もあります。ブログ作成講座では、研修用パソコン等の環境が整っていない、資料とプレゼンだけで理解して頂くのに苦慮しています。今後の塾生のレベルをみながら、座学研修のあり方について検討していかねばならないと思います。

なお本講座の活動は、ホームページ(左記掲載)でも掲載しています。
<http://www.justmystage.com/home/skikaisai/>

自遊塾開講状況

年度(平成)	塾長	講座数	新規県民教授数	塾生数
7年度	永田円了	16	16	324
8年度		15	9	360
9年度	松原和仁	17	8	357
10年度		35	24	823
11年度	泉 貞夫	43	17	981
12年度		37	9	659
13年度	経田博子	41	8	712
14年度		59	18	993
15年度		72	16	1,342
16年度	岡岸喜義	78	10	1,125
17年度		48	7	792
18年度	松本慎一	54	9	833
19年度		57	9	935
20年度	加藤利雄	56	6	905
21年度		58	7	893
累 計		686	173人	12,034人

県民カレッジ自遊塾は平成15年に開設されました。開設当初は16講座で、塾生324名の小さな生涯学習でスタートしました。現在、平成21年度は58講座で塾生893名の県内唯一の何処にもないユニークな学べる生涯学習に成長しました。県の教育委員会のお力添えと歴代の関係者の協力のおかげで今日の発展を見ることができました。厚くお礼を申し上げます。

・自遊塾は「趣味」「学び」「遊び」の3原則が基本理念です。15年の間にはいろんな出来事がありました。県民教授、塾生が一体となつて前向きに乗り越えてきました。

・民間の家元制度と異なり、個人の持つ趣味、研究が高じて生まれた小さな講座の集まりが、次第に大きくなり、県内最大の講座数になりました。

・自遊塾の大きな支えは県民教授、塾生の「やる気」「根性」「がんばり」が基本となり、今日の発展に繋がりました。

今後の課題と問題点

- ・他の団体「生涯学習協議会」と連携を密にして社会のニーズに合った求められる団体を目指す必要があります。
- ・15年の間に培われた歴史を踏まえて「学ぶ集団」から「求められる集団」を目指したいと考えています。
- ・学びの成果を地域に還元するシステムを構築する。
- ・県民教授の研修の場を作り、質を高める。
- ・出前講座制度を確立し、「会社」「高齢者」「学生」と交流の場を持つ。
- ・講座間の連携を密にして「交流」と「連携」で研鑽の場を広める。

*自遊塾は県と連携して生まれたものですが、少ない予算で最大の効果を上げる講座に成長しました。皆様と共に今後の発展を祈り、頑張りましょう。

自遊塾誕生15周年を迎えて

自遊塾塾長 加藤 利雄

編集後記

斉藤 允

自遊塾15年、この通信も36号を数えるに至りました。そこで今号では、歴代塾長のみならず執筆をいただきました。紙面の制約から十分記述することができなかつたことと思いますが、いろいろのご苦労をされたこととさせていただきます。うかがい知れませんが、その結果として多くの県民教授が生まれ、1万2千人もの塾生が意欲的に学ばれたことに感謝を申し上げます。今後ともますますのご研鑽とご活躍を願っております。

また、結城学長さんにはご多忙の中ご指導ご執筆いただきありがとうございました。新県民教授のみならずにはこれからもこの自遊塾で活躍されるよう願っております。

「井戸端通信」のバックナンバーを第1号から下記のアドレスにて再掲載していますのでご覧下さい。なお、内容に関するお問い合わせは、県民カレッジ本部までお願いします。

県民カレッジのホームページ 「自遊塾倶楽部」よりダウンロード出来ます。

<http://www4.tkc.pref.toyama.jp/toyama/download.phtml#668>